



特定医療法人社団

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第44号

発行: 2009年12月15日  
発行責任者: 特定医療法人社団 鵬友会  
事務局長 池島 守

## デイケアを新設・外来部門の充実を

横浜ほうゆう病院 事務部長 広岡 信子



横浜ほうゆう病院が認知症の専門病院としてこの地に誕生してから、早いもので来年で10年目を迎えようとしています。

その間には何度もの診療報酬の改定、引き下げと同時に医療安全管理を目的とした改善のための方策についてが厳しく求められてきました。

今年の立ち入り検査においても、重点項目として医療安全管理の確認に集中していましたので、これからも医療安全を高めていくために体制の整備に取り組みなくてはならないでしょう。

昨年の今頃に家族満足度調査を実施したところ、「総合的に考えて当院に入院されたことについての満足度」はいかがですか?の問いに、合わせて90%以上の方が“満足”・“非常に満足”との回答をいただけたようです。(鵬友会ニュースレター37号掲載)

また、自由記述欄に書かれていたご要望やご意見に対しても、今後活かしていかななくてはと考えています。そして医療安全管理のもと、患者さんと医療従事者がともに安心して治療に専念できる医療環境作りをめざせたらと思います。

小阪院長の就任時に提案された10ヶ条のテーマも既に実施されているものや、現在進行中のものがあり、その一つである外来の充実が今、着実に動き出し始め、環境作りに着手する運びになりました。

一般病院の外来と当院の外来の大きな違いは1人の患者さんの診察時間が長時間必要であることです。初診、或いは入院に至っては、診察が2時間以上かかることもしばしばとなり、診察室の不足が生じてしまい、予約が長いこと入れられなく、患者さんや先生方に大変ご迷惑をおかけしてしまっている状態です。

しかし、幸いなことにデイケア部門を新設する計画の中で、2部屋しかない診察室を増設することになりました。今あるデイケアを移設し、空いたスペースに診察室・処置室・相談室などを増設する事を計画しています。この改装が出来上がることにより、今までより多くの患者さんが診察を受けていただけるようになるのではないかと期待しております。

そして、これからもより質の高い認知症専門病院が実現できるように、更に病院機能評価取得に向けても前進あるのみと考えています。

# 第11回 市民向け医療・福祉講座 開催しました。

平成21年11月13日 18:30より、当法人主催の市民向け医療・福祉講座を開催しました。第11回目となる今回は、“認知症をめぐって～地域連携を中心に～”と題した講演会で、当日はあいにくの雨にも関わらず、たくさんの方にご参加頂き、定員300名の会場は終始満席状態で、熱気に包まれました。そして当法人理事長児玉喜直より開会の挨拶を行い、講演会の幕が上がりました。



【開会の挨拶：児玉理事長】

## <第1部 基調講演>

東京都医師会理事も務める弓倉医院院長

弓倉整先生が「板橋区における認知症への取り組み」というテーマで講演して下さいました。この中で弓倉先生は、認知症対策を始めた経緯、認知症早期発見の重要性、板橋区での実際の取り組みについての事例を具体的に説明され、これからの日本社会において当たり前の病気となる認知症についてもっと市民の意識の底上げを図り、地域で支えていく事が大切だと述べられました。



【講師：弓倉 整先生】

## <第二部 シンポジウム>

続いてのシンポジウムでは、地域連携の観点から旭区、瀬谷区、泉区の各地域の方々をシンポジストとしてお迎えし、それぞれの立場からのご意見を頂きました。

瀬谷区医師会会長田村聡氏は、サポート医としての立場から見た瀬谷区の地域連携の現状の問題点や今後の展望を含めお話しされました。また、開業医と専門医の意識のズレといった問題点を挙げ、連携を上手く行う為には、関係する全ての職種の人達が直接顔を見ながらディスカッションしていく事が重要だと述べられました。また、瀬谷区福祉保健センター高齢者支援



【座長：小阪院長】

担当係長松浦拓郎氏は、瀬谷区の現況と区を越えて取り組んでいる徘徊ネットワークシステム

や医療マップの作成について説明され、認知症の対策には長期的な視点で取り組まなければいけないとし、横浜市上飯田地域ケアプラザ地域包括支援センター主任ケアマネジャー山中信正氏は、泉区の地域連携の実情や自らの役割を説明され、場内の参加者に対し、生活の中で困った事があれば、近くの地域包括支援センターへ是非相談して下さいと呼びかけられました。更にあさがお協力隊代表中川泰雄氏は、旭区のボランティア団体であるあさがお協力隊の概要や活動内容を説明され、重要なのは、普段生活の中で何か変化がないか見守ること、“おもいやり”と“やさしさ”が原点であると訴えられ、横浜ほうゆう病院主任看護師遠藤美和子氏は、看護師としての役割を自らの体験談を交え話され、その人にあった連携をとっていく事が重要と述べられました。そして横浜ほうゆう病院小阪憲司院長は、地域連携の中核を担う機関として認知症疾患医療センターを立ち上げる事が、地域連携を構築する上で重要であると述べ、シンポジウムを締め括りました。



【各シンポジストご紹介：左から、田村、松浦、山中、中川、遠藤 各氏】



【次回市民講座開催：  
新中川病院 福田千文院長】



【閉会の挨拶：  
池島常務理事】

最後に、新中川病院福田千文院長から、次回の市民講座の案内と、当法人常務理事池島守より閉会の挨拶として、ご参加頂いた全ての方へ感謝の意を述べ、閉幕しました。